

もくじ

④用水路をつくる

用水路をつくるにはどのようにふうや苦勞があったのでしょうか。



「用水路の工事は、どんなようすだったのかしら。」

とも子さんたちは、どこから水を取り入れ、若松の町まで流そうとしたか調べてみました。

取り入れ口から若松の町まで



十六橋水門①取入口なべ沼の分水門②

若松の町へ向かう戸ノロせきの水路(左はし)③

若松の町まで、水の高さをできるだけもち、水田をふやせるように水を流しました。

滝となって流れる戸ノロせき(金掘ふきん)④

どうしても水の高さをたもてないところを滝にして通した。



戸ノロせきの切り通し⑤(高山、ふきん)

水の高さをたもつため、山をほりあげ、水路をつくった。



白虎隊が通った飯盛山の洞門⑥

1868年8月22日、橋をわたった西軍と戦った白虎隊は、戦いにやぶれ、滝沢峠をひき返した。峠の道は、てきでいっぱいとなった。そこで、白虎隊士20名は、不動川にそって進み、戸ノロせきの飯盛山の洞門をくぐりぬけ、飯盛山にたどりついた。

用水路の水をどのようにして水田に引くのでしょうか。みんなは、下の写真やかんさつをもとに、用水路がどのように広がっていくのかたしかめました。



戸ノロせきの本水路と広がる水田

本水路が山ぎわの高いところを通っています。それより下に水田がだんになって広がっています。用水路は完成までにやく70年かかりました。その後しゅうりされコンクリートの水路になり、今でも使われています。

分水門とその水を受ける水田 分水路から水田へ水を引く

